

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤坂 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

| 主として「知識」に関する問題(A) | 主として「活用」に関する問題(B) |
|---|--|
| ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 | ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語A | | 国語B | | 算数A | | 算数B | | 理科 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.5 | 71 | 4.3 | 54 | 8.6 | 61 | 5.0 | 50 | 9.6 | 60 |
| 全国 | 8.5 | 71 | 4.4 | 55 | 8.9 | 64 | 5.1 | 52 | 9.6 | 60 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|---|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | 記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する体験が必要であること、情景描写を基に登場人物の相互関係や心情を捉えるなど文章を読み取る力を高めること、文の中で正しく漢字を使うことなどが課題である。 |
| | よくてきた問題 | 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う問題については正答率が高い。 |
| | 努力が必要な問題 | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は、正答率が低かった。 |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | 記述式の問題において、3問中2問の正答率が全国を上回るなど児童の「書く力」が向上していることが伺える。複数の情報を関連付けて読む、事例を挙げて書く、情報を適切に関係付けて書く、他のものと比較して書く力を付けることが課題である。 |
| | よくてきた問題 | 計画的に話し合うために、司会の役割について捉える問題は、正答率が高い。 |
| | 努力が必要な問題 | 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題については、無解答率が高かった。 |
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | これまで本校の課題であった図形領域に関する設問や円周率の意味理解に関する設問の正答率が全国平均を上回った。計算の意味の理解を基に演算決定をする、180度より大きな角の測定、グラフを読み取る力を付けることが課題である。 |
| | よくてきた問題 | 示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる問題は、正答率が高い。 |
| | 努力が必要な問題 | 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる問題については、無解答率が高かった。 |
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | 数学的な考え方を高めることが本校の重点課題である。特に、図形の構成要素や性質の理解、敷き詰め模様の図形の観察と論理的な考察・表現、複数の情報を関連付けて解釈し、考え表現する力を高めていくことが課題である。 |
| | よくてきた問題 | 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる問題は、正答率が高い。 |
| | 努力が必要な問題 | メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる問題は、正答率が低かった。 |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 予想を立てたのち、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験が構想できる、実験結果を基に分析して考察し、その内容が記述できる、複数の情報を基にした分析ができる等の力を付けていくことが課題である。 |
| | よくてきた問題 | 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる問題は、正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる問題は、正答率が低い。 |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や目標をもっている」児童の割合が低い。自分の将来をしっかりと見定め目標設定をさせる必要がある。 ・児童の自己肯定感をさらに高め、「自分にはよいところがありますか」「人の役に立ちたいと思いますか」の問いに肯定的な回答をする児童を100%に近づけたい。 ・「朝食を毎日食べている」、「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしている」児童の割合が全国と比べても低い。家庭との連携を図り改善していく必要がある。 ・算数科の学習においては、「算数の勉強は好き」と答えた児童の率は全国平均を上回っている。また、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の問いに肯定的な回答をしている児童が多い。これは、算数科学習を本校の主題研究として、重点的に取組を進めてきた成果であると考えられる。 ・家で学校の宿題をしている」と回答した児童の率は、97.3%と高く全国平均を上回っている。しかし、「学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「普段(月～金)では、1時間以上すると回答した児童は、38.8%で全国と比較してかなり低い。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「文章を読む力」「言語の力」を高めるために、朝自習時間に従来通りの読書タイムに加え、漢字フラッシュカードの活用や国語チャレンジタイムを取り入れる。また、日常的にひまわり音読練習に取り組み、成果を発表する場として「音読コンクール」を実施する。 ・毎日、5校時の始まる前に算数チャレンジタイムを実施する。 ・赤坂方式のノート指導の徹底および学習活動の中に自分の考えを書く場面を設定するなど、「書く」ことの習慣化を図る。 |
|--|

② 家庭生活習慣等に関する取組

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「北九州市 子どもを育てる・子どもの誓い10か条」の啓発及び実践を図る。基本的な生活習慣を身に付けさせ、毎朝、笑顔で登校できるようにする。 ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用等を通して、宿題以外の学習に、計画的に取り組み習慣(学年×10分の時間を目安とする)をつけさせる。 ・家庭との連携を図り、家の人と学校での出来事について、毎日話をする習慣を付けさせる。 ・中学校区で教員が相互に授業参観等する中で、学習のきまり等を作成して共通理解を図り、学力の向上を図る。 |
|---|